

## 令和元年度 日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校 自己評価票

### 【本校の目指す学校像】

日本大学の教育理念である「自主創造」に則り、校訓として「健康」「有為」「品格」を掲げ、付属校の特性を生かして中学・高校・大学の10か年教育の展望とゆとりをもって、心身ともにバランスのとれた豊かな人間形成と国際的素養の育成を目指す。

### 【本校の特長及び課題】

具体的な教育目標は、基礎学力の向上、社会性の育成、特別活動の奨励であり、進路に関しては、日本大学はもちろん、日本大学以外の難関私立大学や国公立大学も視野に入れた教育も行う。今後の課題として、併設中学校及び高校1年次からの特進クラス設置に伴い、進学実績のさらなる向上があげられる。

### 令和元年度の実績結果

#### 【概況】

魅力的な学校紹介を行う広報活動により、本校への志願者を大幅に増やし、経営安定な入学者数を確保できた。充実したカリキュラムにより基礎学力を向上させ、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるようにサポートする。また、日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解し実践できる生徒の育成に尽力する。以上の事を念頭に置きそれぞれの部門で目標達成に向かって様々な取組を行っている。さらに、教職員会議・校務運営委員会を中心に会議や委員会で活発な意見交換や評価を行い、PDCAサイクルを実施している。

#### 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度から年次進行で始まる高校新教育課程に向けて、新学習指導要領をはじめとする資料に目を通し、情報を収集している。今年度よりカリキュラム検討小委員会が発足し、高校教頭を中心に総合進学クラス(普通クラスから改称)の教育課程から作成している。新課程用教科書や大学入学共通テストなどいくつかの教科で検討すべき事項があるため、今後の情報や動向に注意する必要がある。</li> <li>・2019年度より実施の中学校「道徳」の教科化について、評価の方法を教務部内で検討し、11月には講師を招いての研修会を開催して、評価文の文例を提示できた。</li> <li>・高大接続改革については、毎年10月に実施していた「高大連携教育」を9月下旬実施に変更し、これまで以上に生徒の文理コース検討の一助になっていると考える。対象学部をこれまでの日本大学5学部から7学部に拡大した結果、生徒の様々なニーズに対応するとともに、日本大学各学部への理解が深まっていると考える。</li> </ul>	A

#### 学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ」を学校は許さないという姿勢で、軽微ないじめも組織的に対応するようにしている。「いじめを受けている」「いじめがある」という連絡が入ったら、いじめ対応チームで動き、報告・連絡・相談を密に行い、連携して対応できる体制をとっている。</li> <li>・いじめ防止のためのアンケート実施及びリーフレットを用い、いじめの防止・</li> </ul>	A

	<p>早期発見につなげている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学は1・2年生において、“いのちの大切さを学ぶ教室”を実施</li> </ul>	
防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災訓練を年2回（火災・地震）実施</li> <li>・ 交通機関別帰宅指示を訓練に継続導入</li> <li>・ 訓練時に緊急時の対応として、事務室を本部として校長指示により、各安全の確認訓練を導入した。</li> <li>・ 毎年3月に教員防災訓練研修を実施し、生徒を安全に避難させる確認を行っている。</li> </ul>	B
夏服装の検討	<p>日々の気温の変動、また最高気温が35℃を超える暑さに対応できるよう、服装移行期間を延長することやポロシャツの導入をするなどした。</p>	A

#### 課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による自主的な生徒会活動の推進	<p>日本大学「NU祭」、「NU-K」や日本大学体育大会に参加し、附属高校での交流を深めている。生徒会の運営や学校行事等の立案・計画・運営等が生徒の自主性によってなされ、生徒会会員生徒の生活が充実したものとなるように貢献している。</p>	B
生徒会活動への理解	<p>学校行事、生徒会各委員会実施などにより生徒会活動への理解を得ている。生徒総会において生徒会の活動報告や委員会活動の報告を行っている。また各学期の始業式、終業式での生徒会タイムで活躍した部活動の表彰や関東大会以上に出場する部活動の壮行会を行っている。</p>	A

#### 進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学祖山田顕義先生と日本大学及び日本大学藤沢中学校・高等学校の成り立ちについて、日本大学企画広報部広報課より講演者を招き、中学1年生と高校1年生を対象として5月に講演会を実施した。これによって日本大学や自校に対する愛校心・帰属意識の高揚を目指した。</li> <li>・ 日本大学学部説明会を、高校2・3年生を対象として6月に実施し、複数学部の説明を聴講できるよう時間帯に配慮して各学部の魅力を生徒に伝えた。今年度も平日実施としたが、部活動が盛んな本校の場合、この時期の週末に実施する場合、試合・大会で参加人数が限られるため、基本的に全生徒が登校する平日、進学を意識する基礎学力到達度模試の翌日に設定し、学校行事として実施した。</li> <li>・ 日本大学個別進学相談会を、三者面談の時期に合わせて高校1～3年生の保護者・生徒を対象として7月に実施し、保護者・生徒個々の興味・関心に合わせた進学相談を行った。</li> <li>・ 日本大学医学部・生物資源科学部獣医学科説明会を、進学を希望する小学校・中学校・高等学校の保護者・児童・生徒を対象として7月に実施し、日本大学への進路指導の一環とした。</li> <li>・ 日本大学生物資源科学部学科説明・施設等見学会を、高校1～3年生の生徒を対象として7月に実施し、各学年の興味・関心に合わせて大学の魅力を伝えた。</li> <li>・ 本校卒業の日本大学生物資源科学部学生と本校生徒との交流会を12月に実施</li> </ul>	B

	<p>し、大学生からの学生生活の紹介や高校生からの質問などを行い、多くの高校1～2年生の生徒が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校3年生を対象として7月に学年集会を設け、日本大学への推薦入試の具体的な手順や対策を伝え、日本大学への進学対策である勉強合宿や夏季講習への参加を促した。</li> <li>・高校全学年で日本大学進学ガイドを配布、進路指導室内に日本大学専用の書棚を設けて大学案内・受験報告書（卒業生からのアドバイス）等を並べているほか、2階廊下にも日本大学の情報を掲示・配架し、資料は持ち帰り自由として書棚に並べている。</li> <li>・進路指導室内に日本大学統一テスト・基礎学力到達度テスト及びその模擬試験問題、対策問題集を保管して専任・非常勤問わず教員に開放し、試験対策に役立てている。</li> <li>・付属特別選抜の学内選考を基礎学力選抜方式のセレクション後に実施することで、生徒が一番に希望する学部への入学を増やし、入学後のミスマッチを減少させている。</li> <li>・以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への推薦入学合格者は43.7%となっており、例年45%前後で推移している（前年度46.4%、一昨年度44.8%）。</li> </ul>	
<p>国公立、難関私大進学者に対する指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1～3年で各学期に対応した進路ガイダンス、新年度開始後の二者面談、長期休暇前の三者面談を通して進学への意識を高め、長期休暇ではオープンキャンパスへの参加を奨励した。</li> <li>・高校2～3年生で一般受験ガイダンスを実施し、予備校・塾の担当者による受験に関する講演を行った。</li> <li>・高校1～2年生で特進クラスの生徒を対象に難関国公立大学の見学と同大学生とのワークショップを実施し、生徒の進学に対する興味・関心を喚起した。</li> <li>・高校2～3年生で特進クラスの生徒を対象に、校内実施の模試とは別に公開会場での模試受験を課し、実際の入試に近い形を経験させている。</li> <li>・高校3年生で校内においてセンター試験プレテストを実施するとともに、塾講師による特別演習を実施した。予備校・塾が刊行しているセンター予想問題集については希望者をとりまとめて購入している。</li> <li>・外部模試受験を奨励し大学受験のための環境を作った。また、11月にも出願指導ガイダンスを行っている。</li> <li>・進路指導室内に、図書室で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学・難関私大の古い赤本・問題集を保管・陳列することとし、書店で購入できないことから受験生が盛んに利用している。</li> </ul>	<p>A</p>
<p>日本大学進学を目指す生徒指導をする。併せて国公立・難関私大受験を希望する生徒の育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年生を対象に学祖山田顕義先生と日本大学及び日本大学藤沢中学校・高等学校の成り立ちについて、日本大学企画広報部広報課より講演者を招き、5月に講演会を実施した。また、中学全学年にわたり、予備校・塾の担当者による実力テストの活用方法や将来に関する講演を行っている。</li> <li>・中学3年では学力推移調査を実施し実力試験の結果を踏まえ、三者面談等で学力向上のための指導をした。日本大学藤沢高校へ121名中121名が進学を希望している。</li> </ul>	<p>A</p>

## 保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
健康診断の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月に中高全学年の健康診断を実施した。実施にあたり全教職員の協力が得られ、生徒の健康状態を把握することができた。</li> <li>結果の返却により、生徒自身も健康状態を把握できた。</li> </ul>	A
AED及びアレルギーに関する研修会の実施	5月に教職員対象のAED研修会を実施した。同時にアレルギーについて研修(エピペンの使用方法やアナフィラキシー症状について)を実施し、非常勤講師も含めた教職員への啓もうが進んだ。	A
事故発生状況の報告	事故発生時の状況を迅速に報告し、関係部署が状況を確実に把握することができた。	A
感染症対策	手洗い、教室の換気を奨励し、インフルエンザ・ノロウイルス等の感染防止に努めた。	A

## 図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書室の改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書室への入室方法を昨年まで記入方式にしていたが、今年度の10月からICリコーダーを使用し、生徒身分証をかざすタッチパネル方式に変更した。利用人数も正確に把握できるようになり、利便性も向上した。</li> <li>図書室としても利用時間を平日は18:30まで、土曜日は15:30までであったが、生徒の要望を踏まえ、土曜日を16:30までに1時間延長した。自習室としての利用生徒も大幅に増加した。</li> <li>図書室利用の規定として、昨年度まで飲食は全面禁止であったが、今年度の10月から飲み物についてはペットボトルや蓋のついた水筒などを利用可とした。食べ物に関しては、図書室内に「モグモグスペース」を新設し、臭いのしない食べ物・咀嚼音のしない食べ物は可とした。生徒も利用規定を守り、活用している。</li> </ul>	A
委員会活動及び読書指導の活発化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の委員会は例年通り「カウンター」係、「管理・環境」係、「広報」係の3班に分かれて活動を行い、与えられた仕事を確実にこなしている。広報班は年に5回「図書だより」を作成してクラス掲示し、読書の啓もうを図った。</li> <li>明るく利用しやすい図書室を目指し、入口へのイラスト等の貼付、「新刊図書案内(年4回)」の発行及び掲示等、いろいろな工夫をしている。学習室としての利用も浸透し、昨年度よりも1.5倍の数の生徒が利用するようになった。</li> </ul>	A

## 広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
本校のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校ホームページのトップページをドローンで撮影した全画面の映像にしてインパクトを与え、本校の環境の良さをPRした。</li> <li>360°バーチャル体感ができる施設写真を掲載し、本校の環境の良さをアピールした。</li> <li>生徒会の協力を得て、ブログを上げてもらい、公開行事のPRをした。</li> </ul>	B
生徒の募集活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員で説明会・相談会に対応し、安定的な志願者数の確保と、受験生の学力層のアップを図った。学内で実施の説明会等は生徒の良さを伝えた。</li> </ul>	A

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高とも塾訪問を実施し、学校・入試についての説明をした。</li> <li>・中学入試では入試直前期に学校見学会を実施した。</li> </ul>	
--	---	--

### 管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
会議・委員会の活発化	各々の責任者が校務分掌や各種委員会をはじめ、教職員会議や校務運営委員会において、活発で前向き意見交換を行い、教育内容の充実並びに受験生の増加や進学実績の向上が図れるように管理職が指示をした。	A
生徒による学級経営に関する評価アンケート実施（分掌）	「生徒による学級経営に関する評価アンケート」の実施目的は、ホームルーム活動での様々な項目の指導が的確に行われ、クラス間で差が出ることによって生徒の不利益が起きないことを目的としている。また、教育目標（校訓や三つの指針）が高いレベルで達成されるための指標となるものにしたいと考えて実施している。	A
安定した生徒募集（財政）	令和2年度高校入試の際の内申基準を変更するとともに、近隣及び成績優秀な中学校に対して基準の緩和措置を実施し、また、説明会や見学会での様々な工夫と努力を行うことで、生徒募集において出願数を伸ばすことができた。	A

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

### 令和2年度の取組目標及び方策

#### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
「新学習指導要領」や「高大接続改革」施行に向けての取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領に関わる各教科の研修会への積極的な参加を継続し、得られた情報をもとにカリキュラム検討小委員会、ならびに学習指導員会で検討する。</li> <li>・高大接続改革の一つである高大連携教育については、令和2年度以降も9月下旬実施を継続し、内容の充実を図りたい。</li> </ul>	高校新教育課程への対応として、令和2年度中に大枠を設定し、令和2年度末もしくは令和3年度はじめに新教育課程を確定させるべく検討を進める。

#### 学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体集会や学年集会等でいじめ防止や人を思いやる気持ちについて考えさせる。</li> <li>・いじめ防止リーフレットを活用し、いじめの防止・早期発見に努める。</li> <li>・いじめ防止アンケート継続実施と結果を踏まえ啓発指導をしていく。</li> <li>・中学1・2年生に“いのち”について考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年初めにいじめ防止のためのリーフレット（教員用・家庭用）を配布し学年集会・保護者会で活用。</li> <li>・中学は7月と10月の年2回、高校は10月に1回、いじめアンケートを実施。</li> <li>・年度初めに「いのちの大切さを知る教室」を開催する。</li> </ul>
基本的な生活習慣の確立	全教員で共通認識をもち、基本的な生活習慣の確立に取り組む。	身だしなみチェックのために整えるのではなく、日々きちんとできるようにこまめに声かけをする。

SNS問題への対応	SNS上での問題の大きさを理解させ、防止に努める。	中学・高校共に1年次に生徒・保護者それぞれに対応した「サイバー犯罪防止教室」を継続実施する。
-----------	---------------------------	--

### 課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒による生徒会行事等の計画・立案・運営など積極的に取り組める体制をつくり、生徒の意見が反映できる活動を行う。各行事終了後にアンケートをとり、次年度の活動に活用する。	年間を通して委員会活動を活発に行い学校行事に取り組む。各行事終了後に「classi」にて生徒アンケートをとる。

### 進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学祖山田顕義先生と日本大学、自校について学ばせ、愛校心を養うとともに日本大学への関心を深めさせる。</li> <li>・高校1年では日本大学の付属推薦入試制度を説明し、日本大学の魅力を伝える。</li> <li>・高校2・3年では各学部学科の内容を知らせ、希望学科を確立させ進学意欲を高める。</li> <li>・高校1～3年で、日本大学へ生徒が足を運ぶ機会を設け、その魅力を伝える。</li> <li>・高校全学年で、日本大学各学部に関する情報を積極的に配信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス</li> <li>・進路講演会</li> <li>・日本大学進学ガイドの配布</li> <li>・日本大学学部説明会実施</li> <li>・各学部個別進学相談会実施</li> <li>・日本大学生物資源科学部学科説明・施設等見学会</li> <li>・日本大学生物資源科学部学生との交流会</li> <li>・日本大学医学部・生物資源科学部獣医学科説明会</li> <li>・オープンキャンパス参加奨励</li> <li>・進路指導室の資料設備充実、常駐する進路担当者の増員</li> <li>・「classi」を利用した日本大学各学部の情報配信学部の情報配信</li> </ul>
日本大学進学への奨励と、国公立、難関私大進学者への指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生では基礎学力向上のため、日々の学習時間を確保させる。</li> <li>・中学1・2年では職業観を育成し進路意識を伸長させる。</li> <li>・高校1・2年では進学のための学力向上と進路決定の準備を指導する。</li> <li>・高校3年は日本大学進学を目指し説明会等を実施する。また、大学受験のための環境作りをする。</li> </ul>	<p>《中学》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路講演会・面談・学力推移調査の実施</li> <li>・職業体験実施・進路ガイダンス</li> </ul> <p>《高校》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習生活調査・三者面談・オープンキャンパス参加奨励</li> <li>・進路ガイダンス・日本大学学部説明会、大学説明会実施・外部模試受験奨励</li> </ul>

## 保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒の健康状態の把握並びに教職員の保健衛生に関する意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年健康診断を実施し、健康状態を把握する。</li> <li>・全教職員対象にAED・エビペン研修会を実施する。</li> </ul>	健康診断は4月、教職員対象の研修会は5月に実施
感染症拡大防止、事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い等呼びかけ、感染症予防に努める。</li> <li>・生徒保健委員による感染症や熱中症、食中毒等に対する予防ポスターの作成、掲示を行う。</li> <li>・保健室から「ほけんだより」を発行する。</li> <li>・学校保健安全法施行規則に従い、出席停止期間を厳守するよう呼びかける。</li> <li>・事故報告書と感染症罹患届の提出の徹底を図り、状況把握に努める。</li> </ul>	年間を通じて実施

## 図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
廃棄図書の見直し	令和2年度も蔵書点検に伴う廃棄図書を見直し、新刊図書との大幅な入れ替えを図る。1年間で約5千冊の廃棄図書の整理をする。	令和2年7月下旬～8月上旬

## 広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
本校のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページをリニューアルし本校の良さを視覚的にPRし、より受験生・保護者に見やすいレイアウト・ページ構成にしていく。</li> <li>・学校説明会の内容がより魅力的にする内容にし、本校生徒の良さを受験生・保護者に伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年5月公開</li> <li>・5月 中学校説明会</li> <li>・6月 中学校見学会</li> <li>・7月・8月 オープンスクール／高校学校見学会</li> <li>・11月 入試説明会</li> </ul>
生徒募集活動	新規の本校での説明会を検討する。	令和2年度中

## 管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
施設・設備	部室棟として利用している老朽化した1・2号館の解体と部室棟の建設を実施する。	令和2年度に実施する。
計画的な教員採用(財政)	退職教員の補充については、計画的に行われている。また、産休・育休・時短に対する担任補充は常勤講師の採用でまかなう。	4月採用で対応する。

## 中長期的目標の取組結果

### 教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
アクティブラーニング／ICT教育の推進	本館・中学棟合わせて、プロジェクター・スクリーン設置教室が6教室となった。Wi-Fi環境の工事が完了し、中学・高校1年生がタブレットPCを1人1台持つようにもなっており、ホームルームや授業で活用している。令和2年度入学生も、遅くとも2学期からタブレットPCを用いて授業に参加する予定である。	B

### 生活指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
教育相談の充実	大学本部からのカウンセラー派遣を継続し、カウンセラーが不在の日は教育相談係の教員で対応した。	A
校内美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常の清掃をきちんと行うように指導した。</li> <li>・大掃除の際には、さらに細部まで徹底して実施するように指導した。</li> <li>・部室に設置した、分別用ゴミ箱を活用しゴミの分別を徹底するよう指導した。</li> </ul>	B

### 課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒による自主的な生徒会活動の推進	生徒を中心に関係教員と協力して学校行事を早期から準備し、各クラス、委員会、クラブの協力を得て実施することができている。日本大学「NU祭」、「NU-K」、日本大学体育大会等に参加し、附属学校間の生徒交流を深めている。	A
生徒会活動への理解	生徒総会の実施や各委員会の実施、情報発信のための掲示、放送等による連絡事項の徹底などにより理解を求めることができた。部活動の活躍を「生徒会タイム」などで紹介した。	A

### 進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学進学希望生徒の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に日本大学学部説明会を実施し、7月に日本大学個別進学相談会、日本大学生物資源科学部学科説明・施設等見学会、日本大学医学部・生物資源科学部獣医学科説明会を実施した。また、高校3年生には7月に学年集会で日本大学推薦入試の具体的な説明と日本大学進学に向けた勉強方法の指導を行った。</li> <li>・高校全学年で日本大学進学ガイドを配布、進路指導室内に日本大学専用の書棚を設けて閲覧自由とし、三者面談期間はクラス面談の前後に進路指導室で係教員が相談に応じた。</li> <li>・5月の二者面談で生徒の進路希望を確認し、7月の三者面談で家庭との意思疎通を図り、8月下旬には主に附属特別選抜に関する面談日を設けている。基礎学力到達度テストを終えた後、10月中旬にも日本大学進学希望生徒を対象として三者面談日を設け、希望用紙を提出させている。いずれも学内〆切と出願まで期間を空けることで、学部・学科を変更したい等、家庭からの不測の要望に備え、入学後のミスマッチを減少させている。</li> <li>・以上の取組を通して日本大学進学を推奨した結果、日本大学への推薦入学合格者は43.7%となっており、例年45%前後で推移している（前年度46.4%、一</li> </ul>	B



	昨年度 44.8%)。在籍 444 名中 194 名が日本大学進学を決定している。	
国公立と難関私大受験者指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部教諭による進路ガイダンスや外部講師による進路講演会を通して進学への意識を高め、長期休暇ではオープンキャンパスへの参加を奨励した。</li> <li>・進路指導室内に、図書室で保管期限を過ぎて廃棄対象となった国公立大学・難関私大の古い赤本・問題集を保管・陳列することとし、書店で購入できないことから受験生が盛んに利用している。</li> <li>・外部模試受験を奨励しセンター試験プレテストを校内で実施した。160 名がセンター試験を出願した。</li> </ul>	A

### 保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
感染症対策 生徒自身の自己管理の推進	担任と連携して教室の衛生状態を確認し、換気、手洗いうがい、マスクの使用などの徹底が図れた。	A
感染症対策 海外修学旅行に向けて麻しん・風しんの予防接種	高校 1 年生の 11 月から接種回数の調査を実施し、接種回数が不足している生徒には保健室から接種を促し徹底した。	A
災害時における緊急対応	防災訓練時、体育祭実施時に救護スペースを設置した。 A E D の使用方法など、研修を通じて周知している。	B

### 広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況																																														
中学校志願者増	<p>①魅力的な学校紹介をする。 生徒による学校紹介や塾生後輩への働きかけ、オープンスクールでの案内など、本校生徒の良さを伝えた。</p> <p>②志願者数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・志願者</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">昨年度</td> <td>第 1 回</td> <td>1 4 2</td> <td>9 2</td> <td>2 3 4</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>1 6 7</td> <td>1 3 2</td> <td>2 9 9</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今年度</td> <td>第 1 回</td> <td>1 4 1</td> <td>9 0</td> <td>2 3 1</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>2 3 2</td> <td>1 2 3</td> <td>3 5 5</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験者</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>男子</th> <th>女子</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">昨年度</td> <td>第 1 回</td> <td>1 4 2</td> <td>9 0</td> <td>2 3 2</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>1 2 8</td> <td>1 0 5</td> <td>2 3 3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">今年度</td> <td>第 1 回</td> <td>1 3 7</td> <td>8 6</td> <td>2 2 3</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>1 7 5</td> <td>9 5</td> <td>2 7 0</td> </tr> </tbody> </table>			男子	女子	計	昨年度	第 1 回	1 4 2	9 2	2 3 4	第 2 回	1 6 7	1 3 2	2 9 9	今年度	第 1 回	1 4 1	9 0	2 3 1	第 2 回	2 3 2	1 2 3	3 5 5			男子	女子	計	昨年度	第 1 回	1 4 2	9 0	2 3 2	第 2 回	1 2 8	1 0 5	2 3 3	今年度	第 1 回	1 3 7	8 6	2 2 3	第 2 回	1 7 5	9 5	2 7 0	B
		男子	女子	計																																												
昨年度	第 1 回	1 4 2	9 2	2 3 4																																												
	第 2 回	1 6 7	1 3 2	2 9 9																																												
今年度	第 1 回	1 4 1	9 0	2 3 1																																												
	第 2 回	2 3 2	1 2 3	3 5 5																																												
		男子	女子	計																																												
昨年度	第 1 回	1 4 2	9 0	2 3 2																																												
	第 2 回	1 2 8	1 0 5	2 3 3																																												
今年度	第 1 回	1 3 7	8 6	2 2 3																																												
	第 2 回	1 7 5	9 5	2 7 0																																												
高等学校志願者増	<p>①学校が育てる人間像を明確にする。 受験生に実施したアンケートで、「校風」が本校の魅力であるという回答が約 47%。全 17 項目のうち 3 番目に高い数字</p> <p>②施設の良さをアピールする。</p>	A																																														

	<p>受験生に実施したアンケートで、「施設」が本校の魅力であるという回答が約70%。全17項目のうち1番目に高い数字</p> <p>③日本大学の付属としての利点を説明会で伝える。 第一志望での受験者のうち約63%が「日大付属校」が本校の魅力と回答</p> <p>④進学校としての魅力を説明会で伝える。 受験者のうち約53%が「進学実績」が本校の魅力と回答</p> <p>⑤志願者数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>推薦入試</th> <th>一般入試(専願)</th> <th>一般入試(併願)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>昨年度</td> <td>67</td> <td>117</td> <td>628</td> </tr> <tr> <td>今年度</td> <td>112</td> <td>169</td> <td>908</td> </tr> </tbody> </table> <p>・昨年に比べて志願者が大幅に増加</p>		推薦入試	一般入試(専願)	一般入試(併願)	昨年度	67	117	628	今年度	112	169	908	
	推薦入試	一般入試(専願)	一般入試(併願)											
昨年度	67	117	628											
今年度	112	169	908											

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

## 中長期的目標及び方策

### 教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
アクティブラーニング／ICT教育の推進	平成31年度入学生よりタブレットPCの導入を始めた。	令和3年度で全学年全生徒が1人1台タブレットPCを持って学校生活を送ることになる。プロジェクター・スクリーン設置教室を増やす予定である。

### 学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめや暴力・体罰のない学校を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>何かあったら信頼できる大人（教員）や友人に話せる環境を作り、相談できる体制を整える。</li> <li>いじめを見逃さないように生徒の様子に注意を配る。いじめへの防止教室・講演会の実施し、啓発教育を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年4月1日～令和3年3月31日</li> <li>令和2年5月「いのちの大切さを知る教室」を開催</li> </ul>
発達障害について学ぶ	発達障害により、困っている生徒に対し、的確な対応ができるようにする。	外部の講演会などに積極的に参加する。

### 課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒会行事に対する生徒アンケートを実施する。定期的な打合せを行う。	生徒会行事に対する生徒からのアンケートをとる。生徒会担当教員と生徒会役員の連絡、打合せを定期的に行うことで互いの理解を深める。	生徒会行事が終了したら、生徒からのアンケートをとり、必要があれば委員会等で次年度に向けての改善策を話し合う。月ごとに生徒会役員と生徒会担当教員で打合せを行う。

## 進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学進学希望生徒の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力到達度テストに向けて学力向上を図る。</li> <li>・日本大学の魅力を生徒に伝えるため、その情報に触れる機会を多く設ける。</li> <li>・大学説明会やオープンキャンパスへの参加を奨励し、大学進学への具体的志望理由を持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインサービスを利用した学習到達度の測定や、実力テストの復習を徹底させる。</li> <li>・学部説明会・個別進学相談会を実施・各学部オープンキャンパスへの参加を奨励する。</li> <li>・進路指導室の資料・設備を充実させ、担任・学年と連携して生徒に情報を提供する。</li> <li>・日本大学各学部の刊行物・掲示物を生徒に配布、学内に掲示し、AO入試等の情報を着実に提供する。</li> </ul>
国公立と難関私大受験者指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター試験・個別入試に向けて学力を向上させる。</li> <li>・各大学説明会やオープンキャンパス参加を通して志望校に進学する意識を高め、具体的志望理由を持てるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンス・外部模試受験奨励・センター試験プレテスト実施</li> <li>・各大学説明会実施・オープンキャンパス参加奨励</li> </ul>

## 保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
感染症対策 生徒自身の自己管理の推進	学校全体で予防のための手洗い、マスク着用等を励行し、予防の意識を高める。	年間を通じて実施
感染症対策 海外修学旅行に向けて麻しん・風しんの予防接種	高校1年生からワクチン接種回数の調査を行い、回数不足している生徒に対して個別に呼びかけ、徹底させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年生対象 (11月調査実施)</li> <li>・高校1年生3月予防接種完了</li> </ul>
災害時における救護ブースの確保	緊急時に備え、防災訓練時に救護ブースを設置する。	春・秋季防災訓練時に実施

## 広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
中学校志願者増	魅力的な学校紹介を行う。生徒による学校紹介や塾生後輩への働きかけ、オープンスクールでの案内など、本校生徒の良さを伝える。	5月 学校説明会、在校生の出身塾訪問 6月 文化祭、学校見学会 7・8月 オープンスクール 11月 入試説明会
高等学校志願者増	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が育てる人間像を明確にする。</li> <li>・施設の良さをアピールする。</li> <li>・日本大学の付属としての利点、進学校としての魅力を説明会で伝える。</li> </ul>	6月 文化祭 7・8月 学校見学会 11月 入試説明会